

## 平成26年度みやぎ食の安全安心消費者モニター研修会 開催結果

- 1 テーマ 「食品中の放射性物質」
- 2 主催 消費者庁，宮城県
- 3 日時 平成26年12月18日（木）午後1時30分から4時まで
- 4 場所 宮城県自治会館2階 202・203会議室
- 5 参加者 みやぎ食の安全安心消費者モニターほか 計44名
- 6 内容
  - (1) 研修概要説明  
説明：消費者庁消費者安全課 政策企画専門職 大浦 由樹子 氏
  - (2) 講義「放射性物質の基礎知識と人体影響」  
講師：横浜薬科大学放射線科学研究室 教授 加藤 真介 氏
  - (3) 講義「食品中の放射性物質の現状と対策」  
講師：消費者庁消費者安全課 企画官 金田 直樹 氏
  - (4) 講義「農産物等の生産現場における取組，現状」  
講師：福島県畜産振興協会長・県酪農業協同組合長 但野 忠義 氏
  - (5) 質疑応答  
回答：横浜薬科大学放射線科学研究室 教授 加藤 真介 氏  
福島県畜産振興協会長・県酪農業協同組合長 但野 忠義 氏  
消費者庁消費者安全課 企画官 金田 直樹 氏

### 【6（4）質疑応答の主な内容】

#### ●質問1

但野氏の講義の中で、機械を使って牛乳を測定し、それによってバイヤーさんが信頼してくれるのではないかという話があったが、どういう形でバイヤーさんに測定結果の情報を提供されているのか。その手段を教えてください。

#### 【但野氏】

数字で情報を出してもわかりにくい面があるので、私たちはこういう検査をしているという事前資料、あるいはきちんと説明をするとわかってもらえる。きちんと検査をしている、という信頼感が大事。また、30ベクレル以下の飼料でないと食べさせないことも徹底している。

## ●質問2

仙台市内の自宅近くの学校の校庭で、高い数値が出たので除染したとマスコミで情報を得た。また、県北でもお米で基準値を超えたことがあった。そのように場所によっては放射性物質が多い部分があるようだが、事故直後にどのように放射線を受けた可能性があるのか。霧箱実験で見た霧のようにものをふわっと受けたのか。

【加藤氏】

事故当初問題になった放射性のヨウ素は、ガンマ線とベータ線の2種類の放射線を出す。このうち、ベータ線は空気にぶつかりやすいため、今回、霧箱で見られたような飛び方で観察できる。一方、ガンマ線はものにぶつかりにくいため、霧箱では観察されない。事故当時の外から放射線を受けたときのイメージとしては、空気にぶつかりやすいベータ線は我々の身体に届かず、ぶつかりにくいガンマ線は届いたと考えられる。したがって、霧箱で観察された霧のように外から我々の身体にあたった放射線はあまり無かったと思われる。

## ●質問3

秋になるときのこを収穫するのが趣味だったが、なぜ収穫できなくなったのか。また、近くの山から土をとってきて花を植え替えたいのだが、土の安全性は。

【金田氏】

きのこについては、県南の丸森町、奥羽山脈及び県北の栗原市周囲まで、たまたま事故から2週間ほどの間に雨が降ってしまったため、山が放射性セシウムで汚染されて枯れ葉も汚染され、結果としてその枯れ葉から出来るきのこも汚染されて、出荷制限がかかっているのが現状。きのこを山からとってきて食べる前には市役所等の検査機で測っていただければと思う。

土について、汚染の可能性や度合いは地域にもよるが10センチほど掘ってからとった土を使っていたら良いと思われる。空から降った放射性物質は土の奥の方には浸透していないことが分かっている。

## ●質問4

山あいの放射性物質はどう対応すれば良いのか。周囲から山あいの上の方までは除染しきれないという意見も聞くことがあるが、いずれは消えると考えているのか。

【金田氏】

例えばセシウムでは半減期が2年のものがあるのでそれは自然に減ってはいくが、半減期が30年と長く、引き続き残るものもある。それらを下手に動かすと放射性物質をまき散らしてしまうということもあるかと思われるので、山の際では定期的に除染して線量を測ってみて、除染が必要な数値であれば市町村に要望を出して除染する、ということを繰り返していくしかないと思

われる。山が汚染されていても、人の生活する場所から離れていれば被曝は大幅に少なくなるので、今暮らしている場所の線量がどれだけかを確認していくことで、追加被曝は防げる。

【質問者】

国や県にも引き続き検査等、また情報提供もよろしくをお願いしたい。

●質問5

海の汚染について、泥の中に入っているいろんな微生物を食べる魚もいる。一度海に流れた放射性物質も時間が経てば半減期などで経るとは思うが、拡散だけではなく蓄積ということは考えなくてもよいのか。

【金田 氏】

御指摘のとおり、流れたものが海の底に沈殿して海の底が汚染されるということは想定される。そのため海の底に住む鱈やメバルは汚染度の高いものが見つかってしまい出荷制限がかかっているのが現状。だが、海や川の汚染された底を除染するかというと、その結果汚染を広げてしまうということにもなりかねないので、下手にいじらない方が汚染を広げないことになるのかと思う。何のために除染するかというと、人が追加被曝しないため。何のために出荷制限をかけているかというと、魚介類を食べる人が追加被曝しないため。海が汚染されたのは事故があったからだとしかたないが、追加被ばくをこれ以上しないためには生活に関わる場所を除染するしかないのではないかと考えている。